

「スポチャン教本」修正点について

(版によりページが違う場合がありますので、それぞれでご確認下さい)

P.34 「名称の変更」

なぎなた→ながまき

P.38,48 「短刀及び長槍、短槍の基本動作の変更点」

四方囲との組合わせで行う

例: ①上を防げ、突け ②左を防げ、突け ③右を防げ、突け

④下を防げ、突け ⑤突け

(長巻は小太刀に準ずる)

P,39 「合戦の追加点」

公式戦では選手が持つ得物の長さの合計が 320 cm以下としている。

P,46,47 「挿絵の修正点」

全て右足が前となる。

P,49 「棒・杖 基本動作の修正点」

挿絵(ページ下半分):基本1の小太刀、長剣に準じない(同じではない)。

そして左右の足を交互に踏み出す。

P,73 「審判員と検査役の心得と留意点の追加点」

二審制の判定は検査役を含め、この4名にて「再判定」とする。または協議の進行上、一審制判定を強化するため、検査役、審判員を増員し決定することも可。

(基本動作の場合は10人審判等、打突審判は3名のチェッカーを増員し、3人審判4人チェッカーの合計7人。チェッカーも旗を持ち、全員の同時裁定とする。)

この場合はあらかじめ「選手の意義は認めない旨」の説明を行ってから実施する。